

# 実験・実習技術研究会 2022 東京工業大学 参加報告

共通機器部門 情報基盤機器管理班 三原 修

## 1. はじめに(目的等)

これまで隔年で開催されている表題の研究会は今年度、オンラインで開催された。次年度、この研究会が本学主催で開催されることもあり、今回この研究会に聴講で参加したため以下報告する。

## 2. 期間・場所

期間：令和4年3月3～4日(2日間)

場所(開催形式)：オンライン(Zoom など)

## 3. 参加者

大学・高専・共同利用研究機関等に所属する技術職員等

## 4. 研修内容

※ 研究会の詳細は <https://www.ofc.titech.ac.jp/jikken2022/> を参照。

1 日目：開会式ならびに下記の特別講演・特別企画の聴講(全て Zoom ウェビナー)

- ・特別講演 1「東工大における DX 推進 ～情報基盤整備と業務形態の断捨離～」  
(東京工業大学副学長(情報基盤担当) 伊東利哉教授)
- ・特別講演 2「科学技術分野の文部科学大臣表彰研究支援賞を受賞して」  
(東京工業大学オープンファシリティセンターマイクロプロセス部門長 松谷晃宏氏)
- ・特別企画 大学間技術系職員交流研修会とのコラボレーション  
「私立大と国立大の垣根を越えた輪、20 年を振り返る… そしてこれから」

2 日目：口頭発表(Zoom ミーティング; 各ルーム別)ならびに閉会式(Zoom ウェビナー)の聴講

## 5. まとめと感想

今回の開催はオンラインであり、次年度の本学開催もオンラインで同様に開催予定であるため、その実行委員メンバーの 1 人として、運営方法等について大変参考になった。

さらに、今回の研究会を通して幅広い知見を得られた。特に 1 日目の基調講演の内、東工大における全学での DX 推進についての御講演では、その導入にあたって大変な苦労があったこと、そしてメール送付を原因とした部局等毎でのデータの散在により無駄な業務が相当発生していてそれを解消するためのデータ統合化の必要性も知ることができ、今後自らの業務効率化(生産性向上)を考える上でも有意義であった。